



【パリ第7大学について】

パリ大学は、1211年にローマ法王により認定され、(伊)ボローニャ大学や(英)オックスフォード大学と同様に、ヨーロッパ最古の部類に入る大学群である。

1969年の高等教育基本法によって現在の大学制度へ移行したことにより、1970年、パリ第7大学(Denis Diderot 大学)が、新制大学の1つとして設立された。旧制パリ大学(ソルボンヌ)より医学部(Santé)、理学部(Sciences)、人文学部(Lettres et Sciences Humaines)の教育課程を引き継ぎ、フランス有数の総合大学のひとつとなる。

パリ市中心部(5区、カルティエ・ラタン地区)に位置し、学生数は26,000名超、うち22%が留学生である。近年中に、国立図書館に隣接するパリ13区のトルビアックに新キャンパスを開設予定。

【パリ第7大学「明日のエネルギー学際研究所(略称:LIED)」】

LIED(Laboratoire Interdisciplinaire des Energies de Demain)は、パリ第7大学(パリ・デイドロ大学)に設立された研究組織であり、自然科学、社会科学、基礎研究、応用研究の垣根を越えて、エネルギー問題に取り組む研究組織。物理学者、科学者、生物学者、生態学者、経済学者、社会学者、心理学者など幅広い分野の研究者が所属している。